

正しく鉛筆を持っていますか

先週は、大雪警報発令のため、2日間、臨時休校としました。久しぶりの積雪で、保内や八幡浜方面に出勤される保護者の方も大変だったのではないのでしょうか。

大雪や大雨、地震など自然災害をゼロにすることは難しいですが、備えることで被害を少なくすることができることを改めて考える機会となりました。

さて、児童が自宅待機の時間を利用して、教職員で生徒指導と特別支援教育についての研修を行いました。その際の資料の一部を紹介します。資料は「**子どもの達成感を大切に**する通級の指導 アセスメントからつくる指導のテクニックと教材」(山口充著 かもがわ出版)です。

最近、親指を突き出すように鉛筆を持つ子どもが増えています。(中略) 手を使った回旋運動をする機会がなくなり、人さし指と親指を輪っかにした状態で指先に力を入れることができない子どもが増えている…(中略) この輪っかを維持する力がないので、鉛筆を持つときに指の輪っかが緩んでしまい、親指突き出しの持ち方になってしまっている…

確かにこのような鉛筆の持ち方をしているお子さんや、筆圧が強すぎたり、弱すぎたりするお子さんを見かけます。

対策トレーニングをいくつか紹介します。

- ペットボトルのふたの開閉あそび
- 運筆練習…黒い楕円に手をつけて、資格の中の点からグルグルと渦巻きが重ならないように書いていく。または四角の枠からはみ出さないように塗りつぶしていく。

根気よく続けることで、鉛筆の先をコントロールする力が身に付いていき、文字も丁寧に書けるようになるそうです。

ICTを取り入れた授業が増えたとしても、鉛筆を使って書く作業は、これからも続くでしょう。お子さんの鉛筆の持ち方や、文字の雑さが気になっている保護者のみなさん、お試しになってみてはいかがでしょうか。

